

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 10じん芥処理費

◎収集の経費

今泉クリーンセンター収集事業

【 今泉クリーンセンター 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち

生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 一般廃棄物の適正な処理のため。

効果 生活環境の保全及び公衆衛生の安定が図られる。

【事業の内容】

(1) 今泉クリーンセンター収集事業

- ・大船、玉縄及び深沢地域の一部のごみの収集・運搬作業を行った。
- ・ごみの減量・分別・資源化を推進するため、市民及び事業者への指導と啓発活動を実施した。
- ・清掃車両の整備及び管理を行った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
29,996	26,982	25,994		988
主な支出内訳				
・今泉クリーンセンター収集事業				
収集作業用等消耗品費				979
収集車両燃料費				6,141
収集車両修繕料				6,672
じん芥収集車購入費(更新3台)				11,662
主な特定財源				
・地方債				
				8,700

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-21 今泉クリーンセンター収集事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1170ごみ収集事業					
主管課 分野名	今泉クリーンセンター	関連課	環境部内各課・管財課車両管理担当				
目標 (目標値)	収集の効率化。可燃ごみの減量化。(生ごみの資源化及び循環資源の再使用、再生利用)						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
	収集対象人口	72,849人	72,231人	71,475人			
運営資源 状 況	決算値	25,994千円	32,983千円	31,217千円			
	(国・県)						
	(負担金等)	8,700千円	14,900千円	13,200千円			
	(一般財源)	17,294千円	18,083千円	18,017千円			
	人員配置数	47.9人	48.9人	49.9人			
	人 件 費	449,130千円	462,163千円	463,664千円			
	協 働 の パ ー ト ナ ー	自治・町内会 廃棄物減量化等推進員	自治・町内会 廃棄物減量化等推進員	自治・町内会 廃棄物減量化等推進員			
事務事業 運営経費	総事業費	475,124千円	495,146円	494,881千円			
	市民1人当 りの経費	2,692円	2,815円	2,827円			
	対象者1人 当りの経費	6,522円	6,855円	6,924円			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※	※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
可燃ごみの年間収集量	◎	目 標 値	10,500.00t	10,000.00t	10,000.00t	10,000.00t	10,000.00t
		実 績 値	10,074.74t	9,929.56t			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目 標 値					
		実 績 値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目 標 値					
		実 績 値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目 標 値					
		実 績 値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 退職者不補充及び異動等による職員数の減少、また、高齢化の進行による「声かけふれあい収集」の収集世帯が増加している中で、日常の収集体制を確保することが困難な状況になってきている。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 季節変動等によりごみの排出量が増加する時期には、市民生活及び収集業務に支障を発生させないよう指導員・副指導員を臨時に収集班に編入して対応した。また、年末及び年始において、「声かけふれあい収集」による高齢者の安否確認とごみ排出に支障がないよう収集班の増員を図った。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 「声かけふれあい収集」については、収集世帯数が増加する中、現状の収集体制では対応が困難な状況になってきており、今後、直営収集の継続を前提とした中で、軽ダンプ車・収集班数を増やし対応していく必要がある。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 退職及び異動等による職員数の減少を考慮しながら、現在、直営が行っている収集業務を順次民間へ委託し、安定した収集体制と市民サービスを確保していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	ごみの収集業務は市民生活にとって重要な事業であり、「声かけふれあい収集」等、質の高い市民サービスを提供していくためには、安定した収集体制が確保できるように、現在、直営が行っている収集業務を民間業者へ委託していく。		
担当課長氏名:	今泉クリーンセンター所長 石井 貞雄		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	ごみの収集は市民生活に密着した業務であることから、安定した収集体制を確保するため民間活力の導入を積極的に検討するとともに、高齢化社会に向けた声かけふれあい収集の拡充に努めていきます。		
担当部名	環境部	部長名	勝山 洋